

[招待講演]

主観的時間を騙す

谷部 好子[†]

信号が変わると歩き出すなど,我々は日常の多くの場面において環境の刺激に反応し身体運動を実行しています. 当たり前のように感じている円滑な反応の実感は,実は脳による「騙し」かもしれません. 本講演では,我々が実施した,参加者に音が提示されたら手を動かす主観的タイミングに関する実験とその結果を紹介します. また,トークの後半では,主観的反応時間を短縮させるテクニック発見を目指す研究計画として,主観的反応時間を騙すことで運動疾患患者の生活の質を向上したり,スポーツ選手のあがりを解消する研究について説明します.

[†]NTT コミュニケーション科学基礎研究所